

「木材流通における情報の統一コードに関する勉強会」への参加企業の募集

木材利用システム研究会事務局

(概要) 木材流通における情報規格に関する勉強会を開催し、産官学が連携して製品に付与する情報の内容や方法について検討する。

1. 目的

製品の生産、在庫、販売情報の管理に用いられるバーコード等のデジタル情報は、林業・木材産業においても重要な情報として原木市場や製材工場等で多用されています。しかし、プレカット工場やハウスメーカーに届く木材製品に記載されているデジタル情報は仕様が各社各様です。

バーコード等に記載される情報が不統一であるため、例えば、プレカット工場等では、製品に記載されている情報が利用できず、入荷した製品を自社で再整理しなければならない状況となっています。また、全国各地で ICT（情報通信技術）を活用した生産管理手法が導入され、生産・加工・流通を直結したサプライチェーンを構築する取組みが行われていますが、これらは個々の取組みに留まっており、横断的な連携は希薄です。

バーコード等に記載される情報が規格化されれば、製材、プレカット、ハウスメーカーの情報連携が可能となることから、発注、受注、在庫管理等の効率化が可能となり、製品のコストダウンにも繋がります。また、全国各地で取り組まれる ICT 活用の取組みも取扱い情報が統一化されれば、システム統合もより容易となり、例えば、有事に対するレジリエンスの強化にも繋がります。

そこで、木材流通に関わる産業、学術、行政が協同し、バーコード等の統一商品コードなど、コード表示のガイドライン、業界標準マニュアルの作成を目標として、そのための課題抽出とソリューションを検討するための勉強会を企画しました。

2. 運営

木材利用システム学寄付研究部門と木材利用システム研究会の共催とします。

3. 参加資格と費用

対象：原則として、本研究会の企業会員である企業とします。

費用：開催運営費として、一社 2 万円とします。

4. 日程と内容

日程	プログラム案
第1回 (4/22 13:00-15:00)	《発起企業他による準備会合》 勉強会の進め方や到達目標の話し合い (開催済み)
第2回 (5 月下旬予定)	情報規格に関する各社の現状と要望の整理
第3回 (6 月下旬予定)	先行事例等についての整理
第4回 (7 月下旬予定)	基準案の検討
第5回 (8 月下旬予定)	まとめ

※第1回勉強会には院庄林業(株)、協和木材(株)、住友林業(株)、積水ハウス(株)、タマホーム(株)、中国木材(株)、飛島建設(株)、(株)長谷川萬治商店の8会員企業の参加がありました。これら企業の他に(株)アルファフォーラムから参加表明をいただいています。

5. 参加申込&問い合わせ先

木材利用システム研究会事務局 (東京大学木材利用システム学研究室内)

担当：幡 (hata@anesc.u-tokyo.ac.jp)、安藤 (ando@anesc.u-tokyo.ac.jp)

電話 03-5841-7506